

検討会現地調査 木古内地区資源保全会との意見交換 概要

日 時 令和元年11月21日(木) 14:30~15:30  
場 所 木古内町役場 2階 第1会議室  
出 席 者 別添「出席者名簿」のとおり

(1) 木古内町の農業概要について

木古内町産業経済課より別添資料により木古内町の農業概要を説明

(2) 木古内地区資源保全会の取り組みについて

木古内町産業経済課より別添資料により組織の取り組み概要を説明

(3) 意見交換会発言要旨

(○~構成員、●~木古内町又は木古内地区資源保全会)

- 木古内地区資源保全会は、他の活動組織と比べ、非農業者の割合が非常に高く特徴的。非農業者の割合が高い背景には、どういったことがあげられるか。
- 地域の元農業者が、構成員に加わっていただき、現農業者と協力して農地や水路の維持活動等を行っている。非農業者構成員の9割程度が元農業者。
- その元農業者の方は、農地は手放しているが、住まいは地域内にそのまま居住していて、手伝っているということか。年齢層は高いか。
- そのとおり。年齢層については、主な離農理由が高齢で後継者もないということもあり、高い状況。
- JA女性部が積極的に関わっておられるようだが、どういった経緯からか。
- もともと、町の事業で花いっぱい運動が実施されており、JA女性部を中心に農村地域でも花を植える活動を行いたいとの要望があった。  
農地周辺の植栽が多面交付金の景観形成の対象活動にあたることから、活動組織に入ってもらい、一緒に取り組むこととなった。
- 学校教育との連携として、田植え体験の場を提供しているようだが、組織の方による出前授業など地域との相互交流も行っているか。
- 小学校のカリキュラムに入れていただき、田植えから収穫、そして収穫したものを食べるころまで、小学校と連携して毎年取り組んでいる。  
子供達の知識として、田植えや稲刈り作業はわかってはいるが、実際に裸足になって、

田んぼに入ったり、鎌を使っての稲刈り作業や収穫後の脱穀などの作業をしたことはない。

子供達が泥だらけになりながら田植えをしている様子や、自分たちで育てて収穫したお米を笑顔でおいしそうに食べている様子を眺めるのがみんなの楽しみになっている。

- 今は、農家の子供達でも農作業を体験したことが無い。手で田植えするなど昔ながらの農業を体験することもよいが、現在の木古内町の農業生産活動を子供達に体験させることも重要では。

例えば、家畜を飼う現場であるとか、食肉センターの見学など貴重な食を生産している意義を小さいうちから理解することにつながる。

可能な取組があればぜひ追加して取り組んでいただきたい。

- 三点ほど伺いたい点がある。
  - 一つ目は、構成員69名のうち女性の割合はどの程度か。
  - 二つ目は非農業者構成員の方はどのような活動をされているか。代表的な活動は何か。
  - 最後に組織の活動内容に「地元食材のPR」とあるが、具体的にはどういったことをされているか。学校給食で地元の食材を取り入れて、それを子供達に紹介などを行っているのか。

- 構成員の女性の割合は、16%でほとんどが農業者の方。
  - 非農業者の方の活動については、ある活動に特化しているということや参加が少ない活動というのは特になく、全般的に参加いただいている。特に農繁期など農業者の人手が足りないときには、草刈りなど農地や施設の維持活動にも参加している。
  - 学校給食については、木古内町で生産されるほうれん草やニラ、また「はこだて和牛」も年1回給食に取り入れてPRしている。お米については地元の「ふっくりんこ」を通年で使ってもらっており、子供達に地元の食材を紹介する活動をしている。

- 農道の話は出てこなかったが、農道の維持管理状況はどうか。
  - 災害が少ない地域という話だが、それほど補修の必要は無いのか。
- 農道の砂利補充等細かい補修はあり、各地区で対応しているところ。
  - 規模の大きな補修については、外注も活用し作業の省力化を図ることもある。
- 資料の地図の中に「伝統農法保全活動」とあるが、これはどのような活動か。
- 先ほどご説明した学校教育との連携で、伝統的な農法を子供達に体験してもらう活動を「伝統農法保全活動」に位置づけて取り組んでいる。
- 子供達が農業体験をすることを通じて、地域のコミュニティの向上が図られていると資料にあるが、どのような点で地域コミュニティの向上が図られたとお考えか。

- 学校教育の中では、活動組織と連携した田植え体験をはじめとした「食育」の取組を進めており、「食育だより」も発行している。子供達の体験や食育だよりを通じて、地域コミュニティの向上を図っていく考え。

また、活動組織の直接の活動ではないが、JA女性部で地元農作物の販売所を設置しており、開店の日には、たくさんのお客様に足を運んで購入していただいている。そういったところで、木古内町の農業や農作物を知っていただき、町全体のコミュニティの向上が図られていると実感しているところ。

- 花の植栽による景観形成については、多くの町で取り組まれているが、その中でも恵庭市の活動は、公共スペースの植栽活動の他に、個人でも花を植えており、町ぐるみの取組となっている。木古内町でも街路に花が植えられているだけでなく、町ぐるみで取り組むなどプラスアルファがあれば、さらに観光客も増えるのではないかと是非検討してほしい。

以 上